

2009年 ストランディングネットワーク北海道 活動報告書



2010年6月

ストランディングネットワーク北海道

はじめに

ストランディングネットワーク北海道(SNH)では、ストランディング情報通報専用電話「北海道いるか・くじら 110 番」を開設するなどして、積極的に北海道内のストランディング(座礁・漂着・混獲)情報を収集しました。その結果、2009 年には 69 件 74 頭の通報を受けましたので、その概要を報告します。

ストランディング情報は、SNH 会員からの通報の他、一般の方からは専用電話「北海道いるか・くじら 110 番」および電子メールにて通報を受けています。また、ネズミイルカについては、一部地域の漁業者に依頼し、直接情報提供を受けました。SNH が受報したストランディング情報はメーリングリストおよびホームページで情報を公開するとともに、逐次日本鯨類研究所(日鯨研)・国立科学博物館に報告しました。また、日鯨研が受報した北海道のストランディング情報のうち、SNH を経由しなかったものについては、日鯨研が公表したストランディングレコードより転記しました。

2009 年 1～12 月までに 69 件 73 頭の北海道沿岸の鯨類ストランディング情報を受けました。そのうち日鯨研ストランディングレコードより転記したものは 3 件 3 頭でした。また、既報と重複している 2009 年 1 月～3 月(2008 年度)分は 19 件 19 頭でした。鯨種としては、ネズミイルカ 31 件 35 頭、ミンククジラ 11 件 11 頭、イシイルカ 5 件 5 頭、カマイルカ、3 件 3 頭、オウギハクジラ、ツチクジラ、ナガスクジラ、マッコウクジラがそれぞれ 2 件 2 頭、ハッブスオウギハクジラが 1 件 1 頭、種判別に至っていないものが 9 件 9 頭でした。

2009 年 4 月以降の特筆すべきストランディング事例をいくつか挙げます。1930 年 9 月 6 日に函館市川汲町において座礁したナガスクジラ(整理番号 SNH09007)の写真と鯨塚に保管されていた鼓胞が 2009 年 4 月に SNH に届けられました。それまでは 2009 年 3 月 1 日に苫小牧市で貨物船の舳先に引っかかった状態で発見されたナガスクジラ(SNH08069)が北海道でのナガスクジラの最初の報告でしたが、1 ヶ月で記録が塗り替えられました。

2009 年 8 月 9 日に根室市桂木でハッブスオウギハクジラ(体長 510cm ♀)が漂着しました。北海道でのハッブスオウギハクジラの報告は 2008 年 6 月 19 日(SNH08031)にもあり、また 2009 年に東京都大田区、岩手県大船渡市でも漂着するなど、情報が集まりつつあります。

2008 年度に比べ、2009 年は報告数減少しました。その要因としては、イシイルカの漂着件数の大幅減少したことが考えられます。2008 年 6 月日本海での 13 件イシイルカの漂着がありましたが、2009 年 6 月はイシイルカの漂着はありませんでした。また、時化が少なかった事も遠因かもしれません。

SNH では、引き続き道内の漂着鯨類情報および標本採集を行い、鯨類研究に寄与したいと考えています。引き続き、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

ストランディングネットワーク北海道
代表 松石 隆

2009 年北海道沿岸におけるストランディングの概要

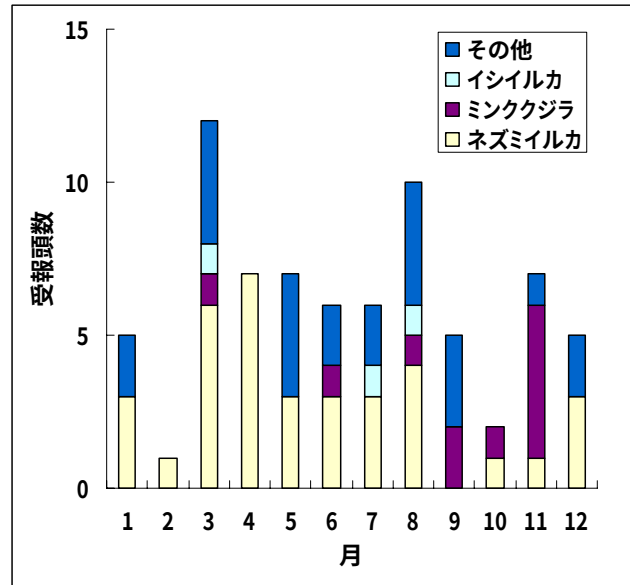
報告・調査件数

受報件数: 69 件 73 頭
 標本取得件数: 43 件

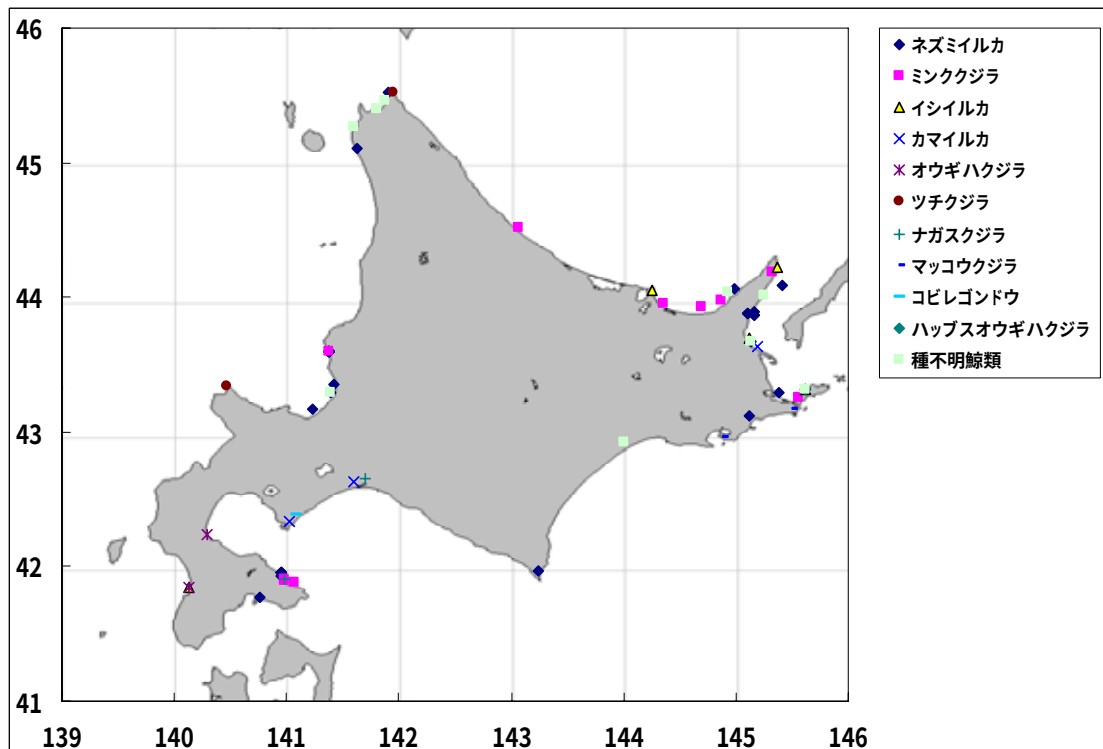
鯨種別受報件数

種名	件数	頭数
ネズミイルカ	31	35
ミンククジラ	11	11
イシイルカ	5	5
カマイルカ	3	3
オウギハクジラ	2	2
ツチクジラ	2	2
ナガスクジラ	2	2
マッコウクジラ	2	2
コビレゴンドウ	1	1
ハッブスオウギハクジラ	1	1
種不明ツチクジラ類	1	1
種不明アカボウクジラ科鯨類	1	1
種不明イルカ類	3	3
種不明ハクジラ類	1	1
種不明ヒゲクジラ類	2	2
種不明鯨類	2	2
合計	69	73

月別受報頭数



種別漂着地理分布



2009年ストランディング情報

2009年1月～3月受報分 (2008年度報告書に掲載したものを改訂再録)

凡例

ストランディングネットワーク北海道整理番号 / 日本鯨類研究所ストランディングレコード登録番号

種名 発見市町村名 / 漂着・座礁・混獲の別

発見日・受報日・発見場所:

緯度経度: WGS84 測地系で表示

発見状況: [生死の別] 詳細

受報時状況: [生死の別] 詳細

生物情報: 体長: 写真: 撮影者

標本: 譲渡先内容等 (譲渡先が必ずしも保存しているとは限りません)

発見・通報: 発見から SNH 通報に到る経緯

備考: その他参考事項を掲載

SNH08062 / O-2544

ネズミイルカ 石狩市 / 漂着

発見日: 2009/1/2

受報日: 2009/1/10

発見場所: 石狩市厚田区無煙浜

緯度経度: 43-17-47.6N 141-23-45.9E

発見状況: [死亡] ほとんど骨格のみ、前肢左右とも欠損。漂着後1～2週間ほど経過?

受報時状況: [死亡] 放置

生物情報: 体長: 184cm 写真: 志賀健司氏 標本: 頭部採集済み

発見・通報: 石橋孝夫 (1/2 発見) → 志賀健司 (1/8 確認)



SNH08063 / O-2545

種不明鯨類 石狩市 / 漂着

発見日: 2009/1/2

受報日: 2009/1/10

発見場所: 石狩市厚田区無煙浜 (SNH08062 から数十 m)

緯度経度: 43-17-47.6N 141-23-45.9E

発見状況: [死亡] 骨3片のみ (頭骨の一部、肋骨、椎骨)。1/2 の発見時はほぼ全身あったらしい。

受報時状況: [死亡] 放置

生物情報: 体長: 不明 (頭骨最大幅は推定 13cm) 写真: 志賀健司氏 標本: 骨3片

発見・通報: 石橋孝夫 (1/2 発見) → 志賀健司 (1/8 確認)



SNH08064 / O-2546

ネズミイルカ 石狩市 / 漂着

発見日: 2009/1/8

受報日: 2009/1/10

発見場所: 石狩市厚田区古潭

緯度経度: 43-21-15.0N 141-25-37.0E

発見状況: [死亡] 半身は骨格のみ。内臓ほぼすべて欠損、左前肢欠損。漂着後1週間ほど経過?

受報時状況: [死亡] 放置

生物情報: 体長: 151cm 写真: 志賀健司氏 標本: 頭部・背中の肉片を採集済み

発見・通報: 桐澤秀人 (1/8 発見) → 志賀健司 (1/9 確認)



SNH08065 / M-1379

種不明ヒゲクジラ類 稚内市 / 漂着

発見日: 2008/12/10
受報日: 2009/1/13
発見場所: 稚内市抜海村字下勇知(こうほねの家から100mほど)
緯度経度: 45-15-58.8N 141-36-13.6E
発見状況: [死亡] 腐敗・食害顕著
受報時状況: [死亡] 流出
生物情報: 体長:370cm 写真:和田昭彦氏 標本:なし
発見・通報: 足田英子氏(12/10 発見)→和田昭彦氏(12/18 確認) ミンククジラ?



SNH08066 /

オウギハクジラ 江差町 / 漂着

発見日: 2009/1/21
受報日: 2009/1/21
発見場所: 江差町南浜町
緯度経度: 41-51-05.5N 140-7-33.6E
発見状況: [死亡] テトラポットに引っかかっている。腐敗顕著
受報時状況: [死亡] 処分方法検討中
生物情報: 体長:3.3m 写真:依頼中
標本: 科博:筋肉(若干量)・胃(全量) 日鯨研:筋肉(若干量) 愛媛大:筋肉・肺・心(若干量) 九大:筋肉(若干量)
発見・通報: 竹内広光氏が発見→江差町産業振興課水産係 村上修氏確認



SNH08067 / O-2551

ネズミルカ 小樽市 / 漂着

発見日: 2009/2/7
受報日: 2009/2/11
発見場所: 小樽市十線浜
緯度経度: 43-10-14.1N 141-14-11.3E
発見状況: [死亡] ほぼ白骨化
受報時状況: [死亡] 放置
生物情報: 体長:約151cm 写真:志賀健司氏 標本:頭骨採集済
発見・通報: 伊藤静孝氏→志賀氏→SNH



SNH08068 / M-1397

ミンククジラ 石狩市 / 混獲

発見日: 2009/3/1
受報日: 2009/3/1
発見場所: 石狩市浜益区沖
緯度経度: 43-36-08.6N 141-22-50.7E
発見状況: [死亡] かすべ刺し網(底刺し網)に羅網し死亡
受報時状況: [死亡] 3月1日午後処理済み
生物情報: 体長:6m 写真: 標本:現地にDNA 標本採取依頼済み
発見・通報: 浜益漁協→SNH

SNH08069 / M-1396

ナガスクジラ 苫小牧市 / 漂着

発見日: 2009/3/1
受報日: 2009/3/1
発見場所: 苫小牧市勇払148地先 苫小牧工業港区勇払埠頭
緯度経度: 42-39-08.5N 141-41-53.5E
発見状況: [死亡] 川崎近海汽船株式会社所属 RORO 船「ひたち」(総トン数7096t)が苫小牧港入港時に船首部分にクジラの死骸が引っかかっているのを発見。海上保安庁に通報。腐敗中度。外傷は少ない。
受報時状況: [死亡] 3月2日午前8時30分から調査
生物情報: 体長:12.0m 写真:SNH
標本: 現場で解剖。科博:筋肉、脂皮、肝臓、心臓、腎臓(若干量) 日鯨研:筋肉、脂皮(若干量) 愛媛大:筋肉、脂皮、肝臓、心臓、腎臓(若干量) 九大:筋肉、脂皮(若干量) 酪農大:筋肉、脂皮、腸(若干量)
発見・通報: 船舶→海保→苫小牧市→苫小牧市博物館→SNH
備考: 推定体重15t DNA登録受付番号 SICRY-09-002



SNH08070 / O-2559

ツチクジラ 稚内市 / 漂着

発見日: 2009/3/9

受報日: 2009/3/9

発見場所: 稚内市宗谷岬 宗谷港東 300メートル

緯度経度: 45-30-59.8N 141-57-13.0E

発見状況: [死亡] 離岸堤消波ブロックに漂着

受報時状況: [死亡] 現場確認中

生物情報: 体長:10.8m 写真:稚内市／北村志乃

標本: 北村が現場で採材 科博:筋肉・脂皮(各若干量) 日鯨研:筋肉・脂皮(各若干量) 愛媛大:筋肉・脂皮(各若干量) 九大:筋肉・脂皮(各若干量)

発見・通報: 稚内市→稚内水試和田昭彦氏→SNH



SNH08071 / M-1402

種不明ヒゲクジラ類 稚内市 / 漂着

発見日: 2009/3/9

受報日: 2009/3/9

発見場所: 稚内市富磯

緯度経度: 45-27-43.0N 141-52-40.4E

発見状況: [死亡] ほとんど白骨化

受報時状況: [死亡] 放置

生物情報: 体長:小型 写真:和田昭彦氏 標本:

発見・通報: 和田昭彦氏→SNH



SNH08072 / O-2560

イシイルカ 江差町 / 漂着

発見日: 2009/3/11

受報日: 2009/3/9

発見場所: 江差町字柏町 五勝手漁港北側海浜

緯度経度: 41-50-58.0N 140-7-31.3E

発見状況: [死亡] 食害があるが新鮮

受報時状況: [死亡] 放置 SNH の回収待ち

生物情報: 体長:150cm 写真:江差町

標本: 科博:筋肉・脂皮・肝臓・腎臓(各若干量) 日鯨研:筋肉・脂皮(各若干量) 愛媛大:筋肉・脂皮・肝臓・腎臓・心臓・肺(各若干量) 九大:筋肉・脂皮(各若干量) 酪農大:腸・すい臓・脾臓(各全量)

発見・通報: 住民→江差町水産係→SNH

備考: 推定体重 40kg



SNH08073 / O-2564

ツチクジラ 積丹町 / 漂着

発見日: 2009/3/27

受報日: 2009/3/27

発見場所: 積丹町野塚町

緯度経度: 43-20-44.2N 140-27-37.7E

発見状況: [死亡] 死体が海岸に漂着した

受報時状況: [死亡] 放置

生物情報: 体長:1150cm 写真:積丹カヤックス 西村巖 標本:SNH の依頼を受け、筋肉・脂皮・歯をリフォレ YH 加藤明さんが採集

発見・通報: 積丹カヤックス西村巖→SNH



SNH08084 / O-2708

ネズミルカ 石狩市 / 混獲

発見日: 2009/1/8
受報日: 2009/3/31
発見場所: 石狩市浜益区沖
緯度経度: 43-36-08.6N 141-22-50.7E
発見状況: [死亡] 混獲
受報時状況: 学術目的譲渡のため持ち帰る
生物情報: 体長:147cm 写真:
標本: 1/15、採集済み 科博:腎・肝・脂皮・筋(各若干量) 日鯨研:脂皮・筋(各若干量) 愛媛大:腎・肝・心・肺・脂皮・筋・脳・血(各若干量) 九大:筋・脂皮(各若干量) 酪農学園:腎・肝・心・肺・脂皮・筋・血・脾・寄生虫(各若干量) 脾・消化管(全量) 帯畜大:全身骨格(両胸ビレなし)・精巢(右)・血(若干量)
発見・通報: 地元漁業者
備考: ホームページ非掲載 HUPP090108

SNH08085 / O-2709

ネズミルカ 石狩市 / 混獲

発見日: 2009/3/3
受報日: 2009/3/31
発見場所: 石狩市浜益区沖
緯度経度: 43-36-08.6N 141-22-50.7E
発見状況: [死亡] 刺網による混獲
受報時状況: 3月10日、処理済み
生物情報: 体長:147.5cm 写真:あり
標本: 科博:心臓・腎臓・肝臓・脂皮・筋(各若干量) 日鯨研:脂皮・筋(各若干量) 愛媛大:腎臓・肝臓・心臓・肺・脂皮・筋・脳・血(各若干量) 九大:筋・脂皮・肺・腎臓・肝臓・血・口腔粘膜・噴気孔粘膜・浅頸リンパ(各若干量) 酪農学園:腎臓・肝臓・心臓・肺・脂皮・筋・血・脾臓・脾臓・寄生虫(各若干量)・消化管(全量) 帯畜大:全身骨格(両胸ビレなし)・精巢(右)・血(若干量)
発見・通報: 地元漁業者
備考: ホームページ非掲載 HUPP090303

SNH08086 / O-2710

ネズミルカ 石狩市 / 混獲

発見日: 2009/3/6
受報日: 2009/3/31
発見場所: 石狩市浜益区沖
緯度経度: 43-36-08.6N 141-22-50.7E
発見状況: [死亡] 刺網による混獲
受報時状況: 3月10日、処理済み
生物情報: 体長:148cm 写真:あり
標本: 科博:心臓・腎臓・肝臓・脂皮・筋(各若干量) 日鯨研:脂皮・筋(各若干量) 愛媛大:腎臓・肝臓・心臓・肺・脂皮・筋・脳・血(各若干量) 九大:筋・脂皮・肺・腎臓・肝臓・血・口腔粘膜・噴気孔粘膜(各若干量) 酪農学園:腎臓・肝臓・心臓・肺・脂皮・筋・血・脾臓・脾臓・寄生虫(各若干量)・消化管(全量) 帯畜大:全身骨格(両胸ビレなし)・精巢(右)・血(若干量)
発見・通報: 地元漁業者
備考: ホームページ非掲載 HUPP090306

SNH08087 / O-2711

ネズミルカ 石狩市 / 混獲

発見日: 2009/3/27
受報日: 2009/3/31
発見場所: 石狩市浜益区沖
緯度経度: 43-36-08.6N 141-22-50.7E
発見状況: [死亡] 刺網による混獲
受報時状況: 4月1日、処理済み
生物情報: 体長:138cm 写真:あり
標本: 科博:腎臓・肝臓・脂皮・筋(各若干量) 愛媛大:腎臓・肝臓・心臓・肺・脂皮・筋・脳・血(各若干量) 九大:筋・脂皮・肺・心臓・腎臓・血・浅頸リンパ・口腔粘膜・噴気孔粘膜(各若干量) 酪農学園:腎臓・肝臓・心臓・肺・脂皮・筋・血・脾臓・脾臓・寄生虫(各若干量)・消化管(全量) 帯畜大:全身骨格・右精巢(全量)
発見・通報: 地元漁業者
備考: ホームページ非掲載 HUPP090327-1



SNH08088 / O-2711

ネズミイルカ 石狩市 / 混獲

発見日: 2009/3/27

受報日: 2009/3/31

発見場所: 石狩市浜益区沖

緯度経度: 43-36-08.6N 141-22-50.7E

発見状況: [死亡] 刺網による混獲

受報時状況: 4月1日、処理済み

生物情報: 体長:128cm 写真:あり

標本: 科博:腎臓・肝臓・脂皮・筋(各若干量) 愛媛大:腎臓・肝臓・心臓・肺・脂皮・筋・血(各若干量) 九大:筋・脂皮・肺・心臓・腎臓・血・口腔粘膜・噴気孔粘膜(各若干量) 酪農学園:腎臓・肝臓・心臓・肺・脂皮・筋・血・脾臓・脾臓(各全量)・消化管(全量) 帯畜大:全身骨格・右精巢(全量)

発見・通報: 地元漁業者

備考: ホームページ非掲載 HUPP090327-2



SNH08089 / O-2712

ネズミイルカ 石狩市 / 混獲

発見日: 2009/3/31

受報日: 2009/3/31

発見場所: 石狩市浜益区沖

緯度経度: 43-36-08.6N 141-22-50.7E

発見状況: [死亡] 刺網による混獲

受報時状況: 3月31日、処理済み

生物情報: 体長:147.5cm 写真:あり

標本: 科博:腎臓・肝臓・脂皮・筋(各若干量) 愛媛大:腎臓・肝臓・心臓・肺・脂皮・筋・脳・血(各若干量) 九大:筋・脂皮・肺・心臓・腎臓・血・浅頸リンパ・口腔粘膜・噴気孔粘膜(各若干量) 酪農学園:腎臓・肝臓・心臓・肺・脂皮・筋・血・脾臓・脾臓(各全量)・消化管(全量) 帯畜大:全身骨格(両胸ビレなし)・右精巢(全量)

発見・通報: 地元漁業者

備考: ホームページ非掲載 HUPP090331-1

SNH08090 / O-2712

ネズミイルカ 石狩市 / 混獲

発見日: 2009/3/31

受報日: 2009/3/31

発見場所: 石狩市浜益区沖

緯度経度: 43-36-08.6N 141-22-50.7E

発見状況: [死亡] 刺網による混獲

受報時状況: 4月1日、処理済み

生物情報: 体長:133.5cm 写真:あり

標本: 科博:腎臓・肝臓・脂皮・筋(各若干量) 愛媛大:腎臓・肝臓・心臓・肺・脂皮・筋・脳(各若干量) 九大:筋・脂皮・肺・心臓・腎臓・血・浅頸リンパ・口腔粘膜・噴気孔粘膜(各若干量) 酪農学園:腎臓・肝臓・心臓・肺・脂皮・筋・血・脾臓・脾臓(各全量)・消化管(全量) 帯畜大:全身骨格(全量)

発見・通報: 地元漁業者

備考: ホームページ非掲載 HUPP090331-2



2009 年 4 月 1 日～12 月 31 日受報分

SNH 整理番号 / 日本鯨類研究所ストランディングレコード登録番号

鯨種 発見場所 / 座礁・漂着・混獲

発見日時: 発見した日時

受報日時: SNH が受報した日時

発見場所: 発見場所の詳細 (海域) 津軽海峡/噴火湾/太平洋/根室海峡/オホーツク海/日本海に分類

緯度経度: 緯度経度(WGS84) [緯度経度の根拠]

発見状況: [発見時の生死] 発見の経緯・発見時の状況

受報時状況: [受報時の生死] 受報時の状況

生物情報: 体長:[測定者/測定方法] 性別: 写真:撮影者 鯨種判定:判定者/判定方法

標本: 採取した標本等 科博:科博 愛媛大:愛媛大学 日鯨研:日本鯨類研究所 九大:九州大学 酪農大:酪農学園大学 帯畜大:帯広畜産大学 北大:北海道大学

通報経路: SNH まで情報が届くまでの経路

備考: その他参考事項

凡 例

SNH09001-1 / O-2573

ネズミルカ 函館市 / 混獲

発見日時: 2009 年 4 月 9 日 6 時 8 分

受報日時: 2009 年 4 月 9 日 6 時 8 分

発見場所: 函館市白尻町 白尻水産定置網 ()

緯度経度: 41-56-14.4N 140-57-09.7E [地名]

発見状況: [生存] 定置網に迷入し漁業者が捕獲

受報時状況: [生存] 学術目的で北大白尻水産実験所に収容

生物情報: 体長:154cm[SNH] 性別:♂ 写真:SNH

鯨種判定:SNH

標本: 科博:心・腎・肝・脂皮・筋・血 (各若干量)、愛媛大:腎・肝・心・肺・脂皮・筋・脳・血 (各若干量)、九大:筋・脂皮・肺・腎・肝・血・口腔粘膜・噴気孔粘膜・浅頸リンパ・肺門リンパ・生殖器 (各若干量)、酪農:脾・寄生虫 (各若干量) / 消化管 (全量)、北大:血・腎・肝・心・肺・脂皮・筋 (各若干量) / 胃 (全量) / 精巢

通報経路: 白尻水産→北大→SNH

備考: 2009 年 4 月 21 日飼育中に死亡し剖検



SNH09001-2 / O-2573

ネズミルカ 函館市 / 混獲

発見日時: 2009 年 4 月 9 日 6 時 8 分

受報日時: 2009 年 4 月 9 日 6 時 8 分

発見場所: 函館市白尻町 白尻水産定置網 (太平洋)

緯度経度: 41-56-14.4N 140-57-09.7E [地名]

発見状況: [生存] 定置網に迷入し漁業者が捕獲

受報時状況: [生存] 学術目的で北大白尻水産実験所に収容

生物情報: 体長:159cm[SNH] 性別:♀ 写真:SNH 鯨種判定:SNH

標本: 北大・科博:血液(若干量)

通報経路: 白尻水産→北大→SNH

備考: 2009 年 4 月 21 日にアルゴスタグを装着して放流「トモエ」



SNH09002 / O-2574

ネズミルカ 函館市 / 漂着

発見日時: 2009 年 4 月 10 日時刻不明

受報日時: 2009 年 4 月 10 日 15 時 35 分

発見場所: 函館市広野町 1-3 地先海岸 (津軽海峡)

緯度経度: 41-46-27.3N 140-46-00.8E [現地確認]

発見状況: [死亡] 匿名住民が死体が漂流しているのを発見し、函館市に通報した。函館市はSNHに通報し、SNHが回収した。頭部、胸びれがない、腐敗軽度

受報時状況: [死亡] 放置

生物情報: 体長:100cm(頭部欠損)[SNH] 性別:♂ 写真:SNH 鯨種判定:SNH

標本: 科博:筋・脂皮・肝・腎 (各若干量)、愛媛大:筋・脂皮・肝・腎・心・肺 (各若干量)、九大:筋・脂皮・腎・肺・心 (各若干量)、帯畜:右精巢 (全量)、北大:筋・脂皮・肝・腎・心・肺 (各若干量) / 胃・左精巢 (全量)

通報経路: 函館市→SNH



SNH09003 / O-2575

ネズミイルカ 函館市 / 混獲

発見日時: 2009年4月12日5時32分
受報日時: 2009年4月12日5時32分
発見場所: 函館市白尻町 野村水産定置網 (太平洋)
緯度経度: 41-57-09.2N 140-57-01.7E [現地確認]
発見状況: [生存] 定置網に迷入し漁業者が捕獲
受報時状況: [生存] 学術目的で北大白尻水産実験所に収容
生物情報: 体長:129cm[SNH] 性別:♀ 写真:SNH 鯨種判定:SNH
通報経路: 北大・SNH (漁船に同乗)
備考: 2009年4月23日学術研究のため小樽水族館に移送・継続飼育「コウ」



SNH09004-1 / O-2579

ネズミイルカ 函館市 / 混獲

発見日時: 2009年4月20日5時0分
受報日時: 2009年4月20日5時50分
発見場所: 函館市白尻町 野村水産定置網 (太平洋)
緯度経度: 41-57-09.2N 140-57-01.7E [現地確認]
発見状況: [生存] 定置網に迷入し漁船に引き上げ、直後に放流
受報時状況: [生存] 放流済み
生物情報: 体長:122cm[SNH] 性別:♂ 写真:なし 鯨種判定:SNH
通報経路: 北大・SNH (漁船に同乗)

**NO PHOTO
AVAILABLE**

SNH09004-2 / O-2579

ネズミイルカ 函館市 / 混獲

発見日時: 2009年4月20日5時0分
受報日時: 2009年4月20日5時50分
発見場所: 函館市白尻町 野村水産定置網 (太平洋)
緯度経度: 41-57-09.2N 140-57-01.7E [現地確認]
発見状況: [生存] 定置網に迷入し漁船に引き上げ、直後に放流
受報時状況: [生存] 放流済み
生物情報: 体長:124cm[SNH] 性別:♀ 写真:なし 鯨種判定:SNH
通報経路: 北大・SNH (漁船に同乗)

**NO PHOTO
AVAILABLE**

SNH09005-1 / O-2586

ネズミイルカ 函館市 / 混獲

発見日時: 2009年5月1日5時7分
受報日時: 2009年5月1日5時7分
発見場所: 函館市白尻町 野村水産定置網 (太平洋)
緯度経度: 41-57-09.2N 140-57-01.7E [現地確認]
発見状況: [生存] 定置網に迷入し漁業者が捕獲
受報時状況: [生存] 学術目的で北大白尻水産実験所に収容
生物情報: 体長:125cm[SNH] 性別:♂ 写真:SNH 鯨種判定:SNH
標本: 九大:筋・脂皮 (若干量)
通報経路: 北大・SNH (漁船に同乗)
備考: 2009年5月2日にアルゴスタグを装着して放流



SNH09005-2 / O-2586

ネズミイルカ 函館市 / 混獲

発見日時: 2009年5月1日5時7分
受報日時: 2009年5月1日5時7分
発見場所: 函館市白尻町 野村水産定置網 (太平洋)
緯度経度: 41-57-09.2N 140-57-01.7E [現地確認]
発見状況: [生存] 定置網に迷入し漁業者が捕獲
受報時状況: [生存] 学術目的で北大白尻水産実験所に収容
生物情報: 体長:136cm[SNH] 性別:♀ 写真:SNH 鯨種判定:SNH
通報経路: 北大・SNH (漁船に同乗)
備考: 2009年5月2日に放流



SNH09006 / O-2588

オウギハクジラ 二海郡八雲町 / 座礁

発見日時: 2009年5月4日7時0分

受報日時: 2009年5月8日13時0分

発見場所: 二海郡八雲町浜松 掛川踏切下 (噴火湾)

緯度経度: 42-14-37.7N 140-17-47.3E [地図]

発見状況: [生存] 5月3日より発見者住宅地先付近にて生存漂流している鯨体が認められたが、5月4日朝に死亡している模様であったので、発見者が住宅地先斜路まで鯨体を移動させ、八雲町漁業協同組合を通じて八雲町に通報した。

受報時状況: [死亡] 八雲町死亡獣畜埋却場に埋立済み

生物情報: 体長:458cm[SNH] 性別:♀ 写真:八雲町水産課 鯨種判定:SNH

標本: 科博:筋・脂皮・肝臓・腎臓・血液・乳腺(各若干量) 胃・腸・骨格・卵巣・子宮(全量)、愛媛大:筋・脂皮・肝臓・腎臓・肺・血・乳腺(各若干量)、九大:筋・脂皮・腎臓・肺(各若干量)、北大:筋・脂皮(若干量)

通報経路: 地元漁業者→八雲町→SNH

備考: 2009/5/9 科博・SNH 等により掘り出して調査



SNH09007 / M-1439

ナガスクジラ 函館市 / 座礁

発見日時: 1930年9月6日時刻不明

受報日時: 2009年4月7日時刻不明

発見場所: 函館市川汲町 川汲海岸 (太平洋)

緯度経度: 41-54-26.8N 140-58-38.3E [地名]

発見状況: [不明] 写真より座礁・もしくは漂着したものと推定される。

受報時状況: [死亡] 川汲町曹覚寺鯨塚に埋葬済み

生物情報: 体長:不明 性別:不明 写真:川汲町 加我久栄氏

鯨種判定:SNH(写真) 鼓包(科博山田)

標本: 科博:骨(若干量)

通報経路: 函館市埋蔵文化財事業団→SNH



岸に打ち上げられたクジラ 1930年9月6日
函館市川汲町 加我久栄氏 蔵

SNH09008 / O-2611

ネズミルカ 斜里郡斜里町 / 漂着

発見日時: 2009年5月13日10時0分

受報日時: 2009年5月13日12時0分

発見場所: 斜里郡斜里町ウトロ西 チャシコツ (オホーツク海)

緯度経度: 44-4-00.4N 144-58-53.8E [地名]

発見状況: [死亡] 漂着

受報時状況: [死亡] 知床自然センターが回収冷凍保存

生物情報: 体長:132cm[SNH] 性別:♂ 写真:佐々木基樹 鯨種判定:SNH

標本: 科博:腎・肝・脂皮・筋(各若干量)、愛媛大:腎・肝・心・肺・筋・脂皮(各

若干量)、九大:腎・心・肺・筋・脂皮・口腔粘膜(各若干量)、帯畜:精巢(右)・骨格(全量) 酪農大:消化管(全量)、

北大:腎・肝・心・肺・筋・脂皮(各若干量)・胃・精巢(左)(全量)

通報経路: 知床自然センター→知床博物館→SNH

備考: 2009/5/13 帯畜大でSNHらが解剖



SNH09009 / O-2612

ツチクジラ類 目梨郡羅臼町 / 漂流

発見日時: 2009年5月21日11時35分

受報日時: 2009年5月21日11時45分

発見場所: 目梨郡羅臼町(根室海峡)

緯度経度: 44-0-49.8N 145-14-72.0E [実測]

発見状況: [死亡] 根室海峡北部・羅臼沖での通常のホエールウォッチングツアーに就航中の(有)知床ネイチャークルーズの Ever Green(船長・長谷川正人)が、幼個体をふくむ計3頭のツチクジラの群れを発見観察直後、群れの潜行後の海面付近に漂う「深海イカ状の不審な物体」を認め、餌の残滓かと思ひ確認のため接近撮影したところ、ハクジラの頭部らしいことが判明。

受報時状況: [死亡] 回収したところ、破損、損失あるものの、種の特定ほか検視に十分な新鮮さであり、かつ、ツチクジラの幼個体のように見えるがそうでない可能性が疑われ、くわえて歯形状の傷がある一方、明らかな人為的切断面と思われるところもあり、科学的に精査してもらふべき物件と判断し SNH に通報

生物情報: 体長:不明 性別:♀ 写真:撮影:佐藤晴子 鯨種判定:SNH(DNA 判定 北村)

標本: 科博:頭部、北大・日鯨研:筋(若干量)

通報経路: 佐藤晴子→SNH



SNH09010 / O-2641

イシイルカ(イシイルカ型) 網走市 / 漂着

発見日時: 2009年5月29日時刻不明

受報日時: 2009年5月29日21時40分

発見場所: 網走市二ツ岩(オホーツク海)

緯度経度: 44-3-13.9N 144-15-14.5E [地図]

発見状況: [死亡] 漂着

受報時状況: [死亡] 放置

生物情報: 体長:117.3cm[SNH 北村] 性別:♀ 写真:加藤菊緒 鯨種判定:SNH

標本: 科博:脂皮、筋肉、腎(各若干量)、日鯨研:筋肉(若干量)、愛媛大:脂皮、筋肉、腎(各若干量)、酪農大:腸(若干量)、九大:脂皮、筋肉、腎(各若干量)、北大:脂皮(若干量)・全身骨格(一部欠損)・卵巣(左右)

通報経路: 加藤菊緒(東農大)

備考: 2009/6/9 北大函館にて解剖



SNH09011 / O-2643

マッコウクジラ 厚岸郡厚岸町 / 漂着

発見日時: 2009年5月28日時刻不明

受報日時: 2009年6月2日17時30分

発見場所: 厚岸郡厚岸町大黒島 沖側入り江奥(太平洋)

緯度経度: 42-57-25.5N 144-52-46.0E [地図]

発見状況: [死亡] 漂着 5月28日に地元漁業者がクジラを発見し、直ちに漁協を通じて町に通報。発見時、既に死亡しており腐敗が進み皮膚が白くなっていた。漂着場所は、周囲が一面絶壁の狭い入り江となっている岩礁地帯で、その入り江の一番奥の岩の上に乗っている状況

受報時状況: [死亡] 処理法検討中

生物情報: 体長:約15m 性別:♂ 写真:厚岸町産業振興課 鯨種判定:日鯨研

通報経路: 厚岸町産業振興課→SNH

備考: 漂着場所は狭い入り江で水深が浅く岩場であるため、作業船や台船が入ることができない場所であり、クジラはその一番奥の岩の上に乗って腐敗が進んでいるため、ロープをかけて無理に引き出そうとすると、クジラ自体が引きちぎれて大量の脂等が一気に流出し、昆布へ影響が及ぶことが心配されるため、放置して自然消滅を待つこととした。ただし、脂等の流出は自然に続いているため、オイルフェンスを設置して、昆布への影響を最小限に抑えることとした。オイルフェンスは6月4日に一度設置したが時化により飛ばされたため、7月18日に業者委託により2回目を設置した。(厚岸町情報)



SNH09012 / M-1450

ミンククジラ 函館市 / 混獲

発見日時: 2009年6月3日7時30分
受報日時: 2009年6月3日8時0分
発見場所: 函館市川汲町 大謀網 (太平洋)
緯度経度: 41-54-22.1N 140-59-06.1E [地名]
発見状況: [生存] 混獲
受報時状況: [死亡] 省令にもとづき販売 日鯨研 Y-09-081
生物情報: 体長:5.6m[現場] 性別:♀ 写真:なし 鯨種判定:日鯨研
通報経路: 函市→SNH

NO PHOTO
AVAILABLE

SNH09013 / O-2662

ネズミルカ 目梨郡羅臼町 / 混獲

発見日時: 2009年6月12日時刻不明
受報日時: 2009年6月12日7時5分
発見場所: 目梨郡羅臼町峯浜沖 (根室海峡)
緯度経度: 43-52-27.1N 145-6-34.3E [地名]
発見状況: [死亡] 操業中に底建網による混獲死亡しているところを発見し、全身を回収した。
受報時状況: [死亡] 全身を冷凍保管し、6月14日にSNHに引き渡した。
生物情報: 体長:123cm[SNH 田口] 性別:♂ 写真: 鯨種判定:SNH 田口
標本: 科博:腎臓・肝臓・脂皮・筋(若干量) 愛媛大:腎臓・肝臓・脂皮・筋・血・脳(若干量) 九大:腎臓・脂皮・筋・口腔粘膜・噴気孔粘膜(若干量) 帯畜大:精巣(右) 東農大:全身骨格・心・肺・気管・陰茎・両眼(全量)・寄生虫(若干量) 酪農大:消化管(全量) 北大:腎臓・肝臓・脂皮・筋(若干量)・精巣(左)・胃(全量)
通報経路: 佐藤晴子→SNH

NO PHOTO
AVAILABLE

SNH09014 / O-2663

ネズミルカ 目梨郡羅臼町 / 混獲

発見日時: 2009年6月13日2時30分
受報日時: 2009年6月13日7時30分
発見場所: 目梨郡羅臼町峯浜沖 (根室海峡)
緯度経度: 43-53-19.7N 145-9-56.5E [実測]
発見状況: [死亡] カレイ刺し網に混獲死亡しているものを操業中に発見した
受報時状況: [死亡] 全身を冷凍庫に保管(尾びれに桜井の札)
生物情報: 体長:146cm[SNH 田口] 性別:♀ 写真:桜井憲二 鯨種判定:SNH 田口
標本: 科博:腎臓・肝臓・脂皮・筋(若干量) 愛媛大:腎臓・肝臓・脂皮・筋・血・脳(若干量) 九大:腎臓・脂皮・筋(若干量) 東農大:全身骨格・心臓・肺・両眼(全量)・気管(若干量) 酪農大:消化管(全量) 北大:腎臓・肝臓・脂皮・筋(若干量)・卵巣(左右)・胃(全量)
通報経路: 桜井憲二→SNH



SNH09015 / O-2668

カマイルカ 苫小牧市 / 漂着

発見日時: 2009年6月18日時刻不明
受報日時: 2009年6月18日15時23分
発見場所: 苫小牧市有明町2丁目5-21地先海岸 (太平洋)
緯度経度: 42-37-32.1N 141-35-45.0E [地図]
発見状況: [死亡] 地元住民が、海岸に死体が漂着しているのを発見し、苫小牧市警察署に通報
受報時状況: [死亡] 放置(処分検討中)
生物情報: 体長:166.5cm[科博 山田格] 性別:♂ 写真:小玉愛子
鯨種判定:SNH
標本: 科博: 脂皮・筋肉・肺・腎臓・肝臓・胃壁の一部・精巣(各若干量) 日鯨研: 脂皮(若干量) 愛媛大: 脂皮・筋肉・腎臓・肝臓・心臓・肺・脳・血液(各若干量) 九大: 脂皮・筋肉・腎臓・心臓・肝臓・肺・浅頸リンパ・肺辺縁リンパ(各若干量) 酪農大: 脾臓・脾臓(各若干量)/腸(全量) 東農大: 肺(一部) 北大: 脂皮・筋肉(若干量)/胃内容物(全量)/全身骨格
通報経路: 地元住民→室蘭土木現業所→苫小牧博物館→SNH
備考: 2009/08/27 東農大にて科博山田格先生他の指導により剖検



SNH09016 / O-2671

種不明アカボウクジラ科鯨類 斜里郡斜里町 / 漂着

発見日時: 2009年6月17日時刻不明
受報日時: 2009年6月23日13時23分
発見場所: 斜里郡斜里町ウトロ西 オシンコシンの滝付近 (オホーツク海)
緯度経度: 44-2-18.4N 144-56-01.3E [地名]
発見状況: [死亡] 渡辺氏が漂着している個体を発見。発見時には少し動いていたが死亡寸前の状態であった。その後一旦潮の流れで沖に出た。22日に再度漂着した時にもわずかに動いていたが、おそらく同日中に死亡した。
受報時状況: [死亡] 放置 (処分検討中) 腐敗顕著
生物情報: 体長:621cm 性別:♀ 写真: 知床財団
標本: 科博:骨格・卵巣・胃 (全量)・表皮・脂皮・筋肉・肝臓・腎臓 (若干量) 北大:表皮・脂皮・筋肉 (若干量)
通報経路: HBC クルー→笹森琴絵→SNH



SNH09017 / O-2678

ネズミイルカ 目梨郡羅臼町 / 漂流

発見日時: 2009年6月30日13時38分
受報日時: 2009年6月30日17時48分
発見場所: 目梨郡羅臼町沖海面 (根室海峡)
緯度経度: 44-5-03.3N 145-25-02.6E [実測]
発見状況: [死亡] 通常のホエールウォッチングに就航中の羅臼町拠点の(有)知床ネイチャークルーズのEver Green号から、海面を漂う死体が見つかり記録した。いくらか腐敗進行しており、損傷もあり、観光船への回収せず放置、写真撮影のみ実施。頭部切断、尾柄の一部に切断痕のような傷があり、尾びれ未確認、両胸びれ喪失、背面の背びれ確認困難。漂流部分の長さ推定 90-100cm。
受報時状況: [死亡] 放置
生物情報: 体長:90-100cm(漂流部分) 性別:不明 写真:佐藤晴子 鯨種判定:日鯨研/写真
通報経路: 佐藤晴子→SNH



SNH09018 / O-2681

ネズミイルカ 目梨郡羅臼町 / 混獲

発見日時: 2009年7月4日時刻不明
受報日時: 2009年7月4日11時0分
発見場所: 目梨郡羅臼町峯浜町沖 (根室海峡)
緯度経度: 43-52-27.10N 145-6-34.3E [地名]
発見状況: [死亡] 定置網による混獲
受報時状況: [死亡] 冷凍保管
生物情報: 体長:不明 性別:不明 写真:予定 鯨種判定:SNH
通報経路: 石川勝→SNH



SNH09019 / O-2683

ネズミイルカ 標津郡標津町 / 漂着

発見日時: 2009年7月10日13時0分
受報日時: 2009年7月10日16時28分
発見場所: 標津郡標津町北六条東1丁目 標津漁港内岸壁付近 (根室海峡)
緯度経度: 43-39-59.30N 145-8-5.82E [地名]
発見状況: [死亡] 標津漁港内岸壁付近に漂流する死体発見情報が、漁業者から標津町へ通報され、町職員らが死体回収処理に出動。腐敗ガスにて膨張、一昨日から昨日の高温で腐敗進行した可能性が疑われる。吻部露出、両胸びれ欠損、尾びれと背びれ残存、表皮大部分残る。
受報時状況: [死亡] 標津町により、死体回収後、すみやかに町内のへい死畜獣加工処理工場に搬送、最終処分。
生物情報: 体長:約 120cm 性別:♀ 写真:山崎忠仁氏(標津町) 鯨種判定:SNH
通報経路: 山崎忠仁氏(標津町)→佐藤晴子→SNH



SNH09020 / O-2687

カマイルカ 室蘭市 / 漂着

発見日時: 2009年7月14日時刻不明

受報日時: 2009年7月14日12時2分

発見場所: 室蘭市東町3丁目1番地先イタンキ浜海水浴場 (太平洋)

緯度経度: 42-20-6.94N 141-1-36.68E [地図]

発見状況: [死亡] 砂浜に漂着しているところを、匿名住民が発見し、北海道胆振支庁室蘭土木現業所登録出張所を通じて SNH に通報があった。腐敗顕著で一部白骨化していた。

受報時状況: [死亡] 放置

生物情報: 体長:211.5cm 性別:♂ 写真:室蘭土木現業所登録出張所 鯨種判定:SNH

標本: 科博 筋肉・肝臓・腎臓(各若干量) 日鯨研 筋肉(若干量) 愛媛大 筋肉・肝臓・腎臓・肺(各若干量) 九大 筋肉・肝臓・腎臓・肺(各若干量) 北大 脂皮・筋肉(各若干量) / 胃内容物・生殖腺(一部) / 全身骨格

通報経路: 一般市民→土木現業所→SNH



SNH09021 / O-2685

ネズミルカ 厚岸郡浜中町 / 漂着

発見日時: 2009年7月18日15時30分

受報日時: 2009年7月18日16時20分

発見場所: 厚岸郡浜中町榊町の砂浜 (太平洋)

緯度経度: 43-7-8.05N 145-6-50.17E [地名]

発見状況: [死亡] 15:30頃翌日開催の馬術フェスティバルの乗馬コースの準備で訪れた海岸で死体を発見。死体は新しく、カモメに目や表面をつつかれた程度だった。16:30頃死体回収に赴く。回収時の死体は、カラスとカモメ類についばまれ、骨が大半露出。

受報時状況: [死亡] 発見者が回収

生物情報: 体長:60cm 性別:不明 写真:NPO法人シマフクロウ・エイド 代表理事 菅野 正巳 鯨種判定:SNH

通報経路: NPO法人シマフクロウ・エイド 代表理事 菅野 正巳→道新厚岸、佐藤晴子さん→SNH



SNH09022 / O-2691

イシイルカ 目梨郡羅臼町 / 漂流

発見日時: 2009年8月7日13時55分

受報日時: 2009年8月7日18時19分

発見場所: 目梨郡羅臼町化石浜沖海面 (根室海峡)

緯度経度: 44-13-44.22N 145-22-7.37E [実測]

発見状況: [死亡] 羅臼町拠点の(有)知床ネイチャークルーズのエバーグリーンが通常のホエールウォッチング就航中、海面に漂う死体を発見。ごく少数のカモメ類が付近にいたが、発見時にはついばんでいないようだった。尾柄(尾びれの付け根の部分)に、グリーンのロープ状のものが巻きついていていた。

受報時状況: [死亡] 腐敗ガスで膨満、いたみがみとめられたため、回収と接近を試みることなく通過、放置

生物情報: 体長:約2m 性別:オス 写真:佐藤晴子 鯨種判定:佐藤晴子

通報経路: 佐藤晴子→SNH



SNH09023 / O-2692

ハブスオウギハクジラ 根室市 / 漂着

発見日時: 2009年8月9日15時0分

受報日時: 2009年8月9日16時35分

発見場所: 根室市桂木 桂木海岸 (太平洋)

緯度経度: 43-18-59.00N 145-37-13.0E [実測]

発見状況: [死亡] 8月9日15:00ごろ、匿名住民が漂着鯨体を発見し、16:45にSNHに通報した。すでに腐敗が始まり膨張している状態。

受報時状況: [死亡] 放置(根室市等に通報していない)

生物情報: 体長:510cm 性別:メス 写真:あり 鯨種判定:SNH 北村/DNA

標本: 科博 脂皮・筋肉・腎臓・卵巣・腸(各若干量) / 乳腺(左全量) / 胃・胎児(全量) 日鯨研 脂皮・筋肉(各若干量) 愛媛大 脂皮・筋肉・腎臓・心臓・肺(各若干量) 九大 脂皮・筋肉・腎臓・心臓・肺(各若干量) 北大 脂皮・筋肉(若干量)

通報経路: 匿名住民→SNH



SNH09024 / O-2693

種不明ハクジラ類 根室市 / 漂着

発見日時: 2009年8月10日11時0分
受報日時: 2009年8月10日12時20分
発見場所: 根室市桂木 桂木海岸 (太平洋)
緯度経度: 43-18-43.87N 145-36-42.98E [実測]
発見状況: [死亡] 8月10日11:00ころ、根室市在住本間浩昭氏が発見しSNHに通報した。腐敗著しく、頭部・尾部欠損。

受報時状況: [死亡] 標本採集後放置

生物情報: 体長:約1.5m 性別:メス 写真:本間浩昭 鯨種判定:SNH

標本: 科博: 筋肉(若干量) 日鯨研: 筋肉(若干量) 愛媛大: 筋肉(若干量) 九大: 筋肉(若干量) 北大: 筋肉・胃(各若干量)

通報経路: 本間浩昭→SNH



SNH09025 / O-2694

ネズミルカ 根室市 / 漂着

発見日時: 2009年8月10日11時0分
受報日時: 2009年8月10日12時20分
発見場所: 根室市桂木 桂木海岸 (太平洋)
緯度経度: 43-18-51.07N 145-36-57.81E [実測]
発見状況: [死亡] 8月10日11:00ころ、根室市在住本間浩昭氏が発見しSNHに通報した。腐敗著しく頭部・尾部欠損。

受報時状況: [死亡] 標本採集後放置

生物情報: 体長:約1m 性別:オス 写真:本間浩昭 鯨種判定:SNH

標本: 科博: 脂皮・筋肉(各若干量) 日鯨研: 筋肉(各若干量) 愛媛大: 脂皮・筋肉(各若干量) 九大: 脂皮・筋肉(各若干量) 北大: 脂皮・筋肉(各若干量) / 精巢・胃・肩甲骨(一部)

通報経路: 本間浩昭→SNH



SNH09026 / O-2695

ネズミルカ 根室市 / 漂着

発見日時: 2009年8月10日11時0分
受報日時: 2009年8月10日12時20分
発見場所: 根室市桂木 桂木海岸 (太平洋)
緯度経度: 43-19-3.66N 145-37-30.55E [実測]
発見状況: [死亡] 8月10日11:00ころ、根室市在住本間浩昭氏が発見しSNHに通報した。腐敗著しく、頭部白骨化。

受報時状況: [死亡] 標本採集後放置

生物情報: 体長:約1m 性別:オス 写真:本間浩昭 鯨種判定:SNH

標本: 科博: 脂皮(若干量) 日鯨研: 脂皮(若干量) 愛媛大: 脂皮(若干量) 九大: 脂皮(若干量) 北大: 脂皮(若干量) / 頭骨・胃(一部)

通報経路: 本間浩昭→SNH



SNH09027 / O-2696

ネズミルカ 目梨郡羅臼町 / 混獲

発見日時: 2009年8月10日時刻不明
受報日時: 2009年8月10日13時41分
発見場所: 目梨郡羅臼町峯浜町沖 (根室海峡)
緯度経度: 43-53-06.00N 145-6-42.00E [実測]
発見状況: [死亡] 刺し網に羅網して死亡しているところを、操業中に発見 ケガ多数

受報時状況: [死亡] 冷凍保管

生物情報: 体長:約1m[桜井憲二] 性別:オス 写真:桜井憲二 鯨種判定:SNH

通報経路: 桜井憲二→SNH



SNH09028 / O-2697

イシイルカ(型不明) 根室市 / 漂着

発見日時: 2009年8月10日14時30分
受報日時: 2009年8月10日18時0分
発見場所: 根室市桂木 桂木海岸 (太平洋)
緯度経度: 43-18-55.23N 145-37-06.00E [実測]
発見状況: [死亡] 8月10日14:30ころ、SNH調査員が発見した。すでに白骨化。
受報時状況: [死亡] 標本採集後放置
生物情報: 体長:約2m 性別:不明 写真: 鯨種判定:SNH
標本: SNH:頭骨(一部)
通報経路: 小野雄大→SNH



SNH09029 / O-2701

イシイルカ 標津郡標津町 / 漂着

発見日時: 2009年7月24日時刻不明
受報日時: 2009年8月14日5時21分
発見場所: 標津郡標津町伊茶仁海岸 (根室海峡)
緯度経度: 43-41-23.88N 145-07-07.53E [地名]
発見状況: [死亡]
受報時状況: [死亡] 2009年7月24日に町内のへい死畜獣処分工場にて最終処分済み
生物情報: 体長:約2m 性別:オス 写真:山崎忠仁氏(標津町) 鯨種判定:日鯨研/写真
通報経路: 山崎忠仁→佐藤晴子→SNH



SNH09030 / O-2702

種不明イルカ類 標津郡標津町 / 漂着

発見日時: 2009年7月24日時刻不明
受報日時: 2009年8月14日5時21分
発見場所: 標津郡標津町標津漁港内 (根室海峡)
緯度経度: 43-40-04.34N 145-7-59.39E [地名]
発見状況: [死亡]
受報時状況: [死亡] 2009年7月24日に町内のへい死畜獣処分工場にて最終処分済み
生物情報: 体長:不明 性別:不明 写真:山崎忠仁氏(標津町) 鯨種判定:
通報経路: 山崎忠仁→佐藤晴子→SNH



SNH09031 / O-2704

マッコウクジラ 根室市 / 漂着

発見日時: 2009年9月1日11時30分
受報日時: 2009年9月1日17時57分
発見場所: 根室市落石西 根室海岸 落石西地区 (太平洋)
緯度経度: 43-10-8.19N 145-30-10.88E [実測]
発見状況: [死亡] 9月1日午前中に、匿名住民が発見し、落石漁業協同組合、根室市を経て釧路土木現業所根室出張所に通報があった。釧路土木現業所根室出張所は鯨種判定等のためにSNHに通報した。9月1日に現地を確認したところ、シケで波にもまれている状態であった。
受報時状況: [死亡] 状況観察中(放置の方向)
生物情報: 体長:16.5m 性別:オス 写真:釧路土木現業所根室出張所 鯨種判定:
標本: SNH:表皮、脂皮、筋肉(各若干量)
通報経路: 漁協→根室市→釧路土現根室→SNH



SNH09032 / M-1471

ミンククジラ 枝幸郡枝幸町 / 漂着

発見日時: 2009年9月4日7時40分
受報日時: 2009年9月4日13時31分
発見場所: 枝幸郡枝幸町岬町 ウスタイベ海岸 (オホーツク海)
緯度経度: 44-57-44.09N 142-35-04.87E [実測]
発見状況: [死亡] 発見したときは、既に破損箇所が見られ、斃死して海岸に打ち上げられていた。
受報時状況: [死亡] 処理済み
生物情報: 体長:580cm (2400kg) 性別:オス 写真:オホーツクミュージアムえさし(高島孝宗) 鯨種判定:SNH
標本: SNH:筋肉・脂皮(若干量)
通報経路: 枝幸町→オホーツクミュージアムえさし→SNH



SNH09033 / O-2706

コビレゴンドウ 登別市 / 漂着

発見日時: 2009年9月4日11時30分
受報日時: 2009年9月4日13時28分
発見場所: 登別市大和町2丁目38番地5地先(富岸川河口より東へ約30m) (太平洋)
緯度経度: 42-22-58.02N 141-04-39.99E [地名]
発見状況: [死亡] 9/4に漂着、いったん満ち潮で流出した後、9/4 17:30頃に登別市大和町2丁目34番地1地先(富岸川河口より東へ約50m)へ再漂着
受報時状況: [死亡] 標本採集待ち
生物情報: 体長:331cm 性別:オス 写真:室蘭土木現業所登別出張所 鯨種判定:SNH 北村/DNA
標本: 科博:脂皮・筋肉・肝臓・腎臓・甲状腺(各若干量)/脾臓(各全量) 日鯨研:筋肉(若干量) 愛媛大:脂皮・筋肉・肝臓・腎臓・肺・心臓(各若干量) 九大:脂皮・筋肉・肝臓・腎臓・肺・浅頸リンパ(各若干量) 酪農大:腸(全量) 北大:脂皮・筋肉(各若干量)/胃(全量)/生殖腺(左右)/全身骨格
通報経路: 室蘭土木現業所室蘭出張所→SNH



SNH09034 / M-1472

ミンククジラ 根室市 / 漂着

発見日時: 2009年9月14日時刻不明
受報日時: 2009年9月14日18時15分
発見場所: 根室市長節小沼河口付近 (太平洋)
緯度経度: 43-15-21.00N 145-33-27.00E [実測]
発見状況: [死亡] 腐敗が進んでいて既にバラバラになっています。
受報時状況: [死亡] 放置
生物情報: 体長:不明 性別:不明 写真:匿名住民 鯨種判定:日鯨研/写真
通報経路: 匿名住民→SNH



SNH09035 / O-2707

ネズミイルカ 野付郡別海町 / 漂着

発見日時: 2009年8月6日時刻不明
受報日時: 2009年8月27日16時0分
発見場所: 野付郡別海町風蓮湖 走古丹先端 (根室海峡)
緯度経度: 43-17-48.12N 145-23-05.38E [地名]
発見状況: [死亡] 白骨化 頭骨他わずかの骨が残存
受報時状況: [死亡] 標本回収後冷凍保存
生物情報: 体長:不明(頭骨長約25cm) 性別:不明 写真:SNH
鯨種判定:SNH 北村/DNA
標本: SNH:頭骨、その他骨格(一部)
通報経路: 東京農大匿名学生→NPO 法人北の海の動物センター→SNH



SNH09036 / O-2714

種不明イルカ類 白糠郡白糠町 / 漂着

発見日時: 2009年9月24日時刻不明
受報日時: 2009年9月26日10時28分
発見場所: 白糠郡白糠町バシクル海岸 (太平洋)
緯度経度: 42-55-17N 144-00-30E [地名]
発見状況: [死亡] 一部白骨化, 腹側の皮膚・筋と内臓欠損
受報時状況: [死亡] 標本回収(骨格標本用)
生物情報: 体長:180cm 性別:不明 写真:SNH 鯨種判定:SNH
通報経路: 匿名者→足寄動物化石博物館→SNH



SNH09037 / O-2721

ネズミルカ 幌泉郡えりも町 / 漂着

発見日時: 2009年10月10日15時30分
受報日時: 2009年10月11日11時11分
発見場所: 幌泉郡えりも町字えりも岬 百人浜 (太平洋)
緯度経度: 41-57-53.8N 143-14-35.1E [実測]
発見状況: [死亡] 匿名住民が台風後の海岸漂着物探索中に発見 腐敗
受報時状況: [死亡] 放置
生物情報: 体長:約 2m[匿名住民(目測)] 性別:不明 写真:匿名住民 ©SNH
鯨種判定:SNH 北村/DNA
標本: SNH:筋肉(一部)
通報経路: 匿名住民→SNH



SNH09038 / M-1475

ミンククジラ 斜里郡小清水町 / 漂着

発見日時: 2009年10月28日9時0分
受報日時: 2009年10月28日15時45分
発見場所: 斜里郡小清水町浜小清水 (網走市北浜の白鳥公園の対岸にあたる濤沸湖) (オホーツク海)
緯度経度: 43-57-15.8N 144-21-36.5E [実測]
発見状況: [死亡] 近隣漁民が発見 不明
受報時状況: [死亡] 埋却処分済み
生物情報: 体長:4.5m[宇仁(メジャー計測、鯨体はやや湾曲)] 性別:♂ 写真:宇仁義和 鯨種判定:宇仁義和
通報経路: 近隣漁民→網走漁協→宇仁→SNH



SNH09039 / O-2729

カマイルカ 標津郡標津町 / 漂着

発見日時: 2009年11月2日時刻不明
受報日時: 2009年11月3日11時0分
発見場所: 標津郡標津町東浜町 道道950号13.5キロポスト外海側 (根室海峡)
緯度経度: 43-37-50.6N 145-11-31.1E [実測]
発見状況: [死亡] 環境省職員が巡視中に発見、野付半島ネイチャーセンターを通じてSNHに通報があった 全身が揃っているが一部白骨化
受報時状況: [死亡] 放置
生物情報: 体長:約 2m[写真による推定] 性別:不明 写真:別海町野付半島ネイチャーセンター/別海町観光開発公社 大野木智子・河口真梨 鯨種判定:SNH 北村/DNA
標本: SNH:筋肉(一部)
通報経路: 環境省羅臼自然保護官事務所→別海町野付半島ネイチャーセンター→SNH



SNH09040 / M-1479

ミンククジラ 斜里郡斜里町 / 漂流

発見日時: 2009年11月6日11時0分
受報日時: 2009年11月8日18時23分
発見場所: 斜里郡斜里町本町12 以久科原生花園沖 約2km (オホーツク海)
緯度経度: 43-55-43.27N 144-41-57.78E [地名]
発見状況: [死亡] 北海道新聞北見支社が空撮中に発見 サケ定置網沖を漂流、尾鰭にロープがまかされていた

受報時状況: [死亡] 放置

生物情報: 体長:約 5m[目測] 性別:不明 写真:北海道新聞が撮影したが、版權があり入手公表不可 鯨種判定:宇仁義和、佐藤晴子/写真

通報経路: 北海道新聞北見支社→佐藤晴子・宇仁義和→SNH

備考: 詳細情報を北海道新聞北見支社に問い合わせ



SNH09041 / M-1480

ミンククジラ 目梨郡羅臼町 / 漂着

発見日時: 2009年11月17日時刻不明
受報日時: 2009年11月17日10時0分
発見場所: 目梨郡羅臼町崩浜 カモユンベ (根室海峡)
緯度経度: 44-11-28.89N 145-19-43.56E [地名]
発見状況: [死亡] 北電の検針に護衛で同行していたハンターが発見し知床財団に通報 腐敗がかなり進行していた

受報時状況: [死亡] すでに羅臼町により処分済み

生物情報: 体長:380cm(尾部欠損、湾曲)[石名坂(知床財団)] 性別:不明 写真:石名坂豪(知床財団) 鯨種判定:日鯨研/写真

標本: SNH:下顎骨(一部)

通報経路: 斉藤泰和氏→田澤道広(知床財団)→羅臼町役場水産商工観光課・佐藤晴子氏・石名坂豪(ちょうど外回り中)→SNH



SNH09042 / M-1481

ミンククジラ 斜里郡斜里町 / 漂着

発見日時: 2009年11月17日時刻不明
受報日時: 2009年11月17日時刻不明
発見場所: 斜里郡斜里町真鯉 (オホーツク海)
緯度経度: 43-58-48.90N 144-52-8.49E [地名]
発見状況: [死亡] 海岸からそれほど遠くない浅瀬に漂流、18日に確認時は海岸に打ち上げられ半分砂に埋まっていた状態。その時点で尾の身を何者かに切り取られていた。

受報時状況: [死亡] 斜里町役場環境保全課に連絡済み。現時点では特に移動、埋却処分などはまだ行われておらず、現地に放置状態。

生物情報: 体長:6m(目測)[加藤 由香(知床財団)] 性別:不明 写真:知床財団職員 鯨種判定:加藤・松石

通報経路: 一般住民→斜里町役場→知床財団(野生動物対策部門)→加藤(知床財団)→SNH

備考: SNH09040と同一個体の可能性



SNH09043 / O-2734

ネズミルカ 天塩郡豊富町 / 漂着

発見日時: 2009年11月19日13時0分
受報日時: 2009年11月27日20時19分
発見場所: 天塩郡豊富町稚咲内 利尻礼文サロベツ国立公園内稚咲内園地から1kmほど北側の海岸 (日本海)
緯度経度: 45-06-02.33N 141-37-21.73E [実測]
発見状況: [死亡] オオワシ2羽とオジロワシ1羽、そして複数のカラスによって喰われていた。

受報時状況: [流出] 次の日には無かった

生物情報: 体長:1m20cm(写真)[賀勢 朗子] 性別:不明 写真:賀勢 朗子 鯨種判定:利尻町立博物館 佐藤学芸員、SNH 田口

通報経路: 賀勢→SNH



SNH09044 / O-2737

種不明イルカ類 稚内市 / 漂着

発見日時: 2009年12月1日時刻不明
受報日時: 2009年12月4日13時11分
発見場所: 稚内市声間 メクマ浜(稚内空港前) (日本海)
緯度経度: 45-24-00N 141-48-00E [地図]
発見状況: [死亡] 漂着物調査中に海岸に漂着しているところを発見 白骨化
受報時状況: [死亡]
生物情報: 体長:不明 性別:不明
通報経路: 疋田英子→和田昭彦→SNH

**NO PHOTO
AVAILABLE**

SNH09045 / O-2738

ネズミイルカ 稚内市 / 漂着

発見日時: 2009年12月4日時刻不明
受報日時: 2009年12月4日13時11分
発見場所: 稚内市宗谷村珊内 (日本海)
緯度経度: 45-31-00N 141-54-00E [地図]
発見状況: [死亡] 漂着物調査中に海岸に漂着しているところを発見 比較的新鮮
受報時状況: [死亡]
生物情報: 体長:170cm(写真)[SNH] 性別:不明 写真:疋田英子 鯨種判定:写真判定
通報経路: 疋田英子→和田昭彦→SNH
備考: <http://kujira.tea-nifty.com/hanagara/2009/12/post-606a.html>



SNH09046-1 / O-2748

ネズミイルカ 目梨郡羅臼町 / 混獲

発見日時: 2009年12月24日2時0分
受報日時: 2009年12月24日12時10分
発見場所: 目梨郡羅臼町峯浜沖 (根室海峡)
緯度経度: 43-51-49.68N 145-09-31.79E [実測]
発見状況: [死亡] 刺し網に羅網して死亡しているところを、操業中に発見
受報時状況: [死亡] 保管中
生物情報: 体長:不明 性別:不明 写真:桜井憲二 鯨種判定:写真判定
通報経路: 桜井憲二→SNH
備考: 水深48m 小さい方をSNH09046-1,大きい方をSNH09046-2とします



SNH09046-2 / O-2748

ネズミイルカ 目梨郡羅臼町 / 混獲

発見日時: 2009年12月24日2時0分
受報日時: 2009年12月24日12時10分
発見場所: 目梨郡羅臼町峯浜沖 (根室海峡)
緯度経度: 43-51-49.68N 145-09-31.79E [実測]
発見状況: [死亡] 刺し網に羅網して死亡しているところを、操業中に発見
受報時状況: [死亡] 保管中
生物情報: 体長:不明 性別:不明 写真:桜井憲二 鯨種判定:写真判定
通報経路: 桜井憲二→SNH
備考: 水深48m 小さい方をSNH09046-1,大きい方をSNH09046-2とします



SNH09047 / O-2892

ネズミイルカ 石狩市 / 混獲

発見日時: 2009年4月15日時刻不明
受報日時: 2009年4月15日時刻不明
発見場所: 石狩市浜益区沖 (日本海)
緯度経度: 43-36-08.6N 141-22-50.7E [地名]
発見状況: [死亡] 刺し網による混獲
受報時状況: [死亡] 4月29日、処理済み
生物情報: 体長:115cm 性別:♂ 写真:SNH 鯨種判定:
通報経路: 地元漁業者→SNH
備考: HUPP090415

**NO PHOTO
AVAILABLE**

SNH09048 / M-1469f

ミンククジラ 函館市 / 混獲

発見日時: 2009年8月1日7時30分
受報日時: 2009年12月31日時刻不明
発見場所: 函館市川汲町地先 (太平洋)
緯度経度: 41-54-00N 140-59-00E [日鯨研]
発見状況: [生存] 大型定置網に混獲
受報時状況: [死亡] 省令にもとづき販売 日鯨研 Y-09-098
生物情報: 体長:530cm[発見者] 性別:♀ 写真:なし 鯨種判定:日鯨研
通報経路: 日鯨研→SNH

**NO PHOTO
AVAILABLE**

SNH09049 / M-1478f

ミンククジラ 紋別郡雄武町 / 混獲

発見日時: 2009年11月11日6時40分
受報日時: 2009年12月31日時刻不明
発見場所: 紋別郡雄武町 (オホーツク海)
緯度経度: 44-31-00N 143-04-00E [日鯨研]
発見状況: [生存] サケ定置網に混獲。網外へ出そうとするが死亡。
受報時状況: [死亡] 省令にもとづき販売 日鯨研 Y-09-105
生物情報: 体長:410cm[発見者] 性別:♂ 写真:なし 鯨種判定:日鯨研(DNA)
通報経路: 日鯨研→SNH

**NO PHOTO
AVAILABLE**

SNH09050 / M-1488f

ミンククジラ 函館市 / 混獲

発見日時: 2009年11月29日16時0分
受報日時: 2009年12月31日時刻不明
発見場所: 函館市木直町地先 (太平洋)
緯度経度: 41-53-00N 141-04-00E [日鯨研]
発見状況: [生存] 大型定置網に混獲
受報時状況: [死亡] 省令にもとづき販売 日鯨研 Y-09-111
生物情報: 体長:515cm[発見者] 性別:♀ 写真:なし 鯨種判定:日鯨研(DNA)
通報経路: 日鯨研→SNH

**NO PHOTO
AVAILABLE**

研究業績

SNH の情報・標本等を利用して行われた研究の成果(2008～)

学術論文

- Taguchi, M., Ishikawa, H. and Matsuishi, T. (*in press*) Seasonal distribution of harbour porpoise (*Phocoena phocoena*) in Japanese waters inferred from stranding and bycatch record. Mammal Study.
- Taguchi, M., Chivers, S.J., Rosel, P.E., Matsuishi, T. and Abe, S. (*in press*) Mitochondrial DNA phylogeography of the harbour porpoise *Phocoena phocoena* in the North Pacific. Marine Biology.

学位論文

- Taguchi, M. (2010) Global genetic population structure and phylogeography of harbour porpoise (*Phocoena phocoena*) inferred from mitochondrial DNA variation. A dissertation submitted to Graduate School of Fisheries Sciences, Hokkaido University.

学会発表

- 松石隆・田口美緒子(2008) 2007年度北海道沿岸のストランディングレコード. 日本セトロロジー研究会第19回大会. 2009年6月20日 KKRホテル金沢(石川)
- 谷田部明子・松石 隆・福島広行・東出幸真・工藤英美・和田昭彦・北村志乃・山田格 (2008) 2007-2008年に漂着したオオギハクジラ. 日本セトロロジー研究会第19回大会. 2008年6月15日 KKRホテル金沢(石川)
- Taguchi, M., Abe, S. and Matsuishi, T. (2008) Genetic variation of harbour porpoise in Japanese waters. 5th World Fisheries Congress. 2008年10月24日. パシフィコ横浜(神奈川).
- 田口美緒子・阿部周一・松石 隆 (2009) 北太平洋と周辺海域におけるネズミイルカの分子系統地理学的解析. 平成21年度日本水産学会春季大会. 2009年3月28日 東京海洋大学(東京).
- 松石隆・田口美緒子・北村志乃(2009) 2008 年度北海道沿岸のストランディングレコード. 日本セトロロジー研究会第20回大会. 2009年6月20日 北九州市立自然史・歴史博物館「いのちのたび博物館」(福岡).
- 西田伸・曾根恵海・松石隆・小池裕子(2009) ネズミイルカ(*Phocoena phocoena*)の日本近海における衛星追跡 (予報). 日本セトロロジー研究会第20回大会. 2009年6月20日 北九州市立自然史・歴史博物館「いのちのたび博物館」(福岡).
- 石川恭平・佐々木基樹・田口美緒子・松石隆・坪田敏男・横山知里・早川大輔・北村延夫 (2009) ネズミイルカ精巢の性ステロイドホルモン合成に関する免疫組織化学的研究. 第15回野生動物医学会大会. 2009年9月5日 富山大学(富山).
- 峯弘・佐々木基樹・田口美緒子・松石隆・山田一孝・北村延夫 (2009) ネズミイルカ前肢骨格の可動域に関するCT画像解析. 第15回野生動物医学会大会. 2009年9月5日 富山大学(富山).
- 松石隆・田口美緒子・北村志乃(2010)北海道沿岸における 2009 年のストランディングレコード. 日本セトロロジー研究会第21回大会. 2010年6月19日 北里大学獣医学部(青森).

- 北村志乃・松石隆・山田格・石川創・田辺信介・中川元・阿部周一(2010) ツチクジラ属の遺伝的変異と分子系統. 日本セトロロジー研究会第 21 回大会. 2010 年 6 月 19 日 北里大学獣医学部(青森).
- 斎藤亜実・磯部友彦・松石隆・山田格・田島木綿子・田口美緒子・北村志乃・田辺信介(2010) 北海道沿岸に漂着したネズミイルカ (*Phocoena phocoena*) およびイシイルカ (*Phocoenoides dalli*) の臭素系難燃剤汚染. 日本セトロロジー研究会第 21 回大会. 2010 年 6 月 19 日 北里大学獣医学部(青森).
- 落合真理・野見山桂・磯部友彦・松石隆・山田格・田辺信介(2010) ネズミイルカ科の小型鯨類に残留する PCBs と水酸化代謝物 (OH-PCBs) の蓄積特性. 日本セトロロジー研究会第 21 回大会. 2010 年 6 月 19 日 北里大学獣医学部(青森).
- 斎藤 亜実・磯部 友彦・松石 隆・山田 格・田辺 信介(2010) 臭素系難燃剤によるネズミイルカおよびイシイルカの汚染実態と蓄積特性. 第 19 回環境化学討論会. 2010 年 6 月 21 日(愛知)
- 落合真理・野見山桂・水川葉月・江口哲史・高橋 真・松石 隆・山田 格・田辺信介(2010) ネズミイルカ科の小型鯨類から検出された有機ハロゲン代謝物の蓄積特性. 第 19 回環境化学討論会. 2010 年 6 月 21 日(愛知)

新聞報道

掲載日	掲載誌	見出し
2009 年 3 月 2 日	北海道新聞	クジラ引っかけたまま入港 貨物船、乗員気付かず 苫小牧
2009 年 3 月 2 日	苫小牧民報	入港船の船首にクジラ 体長 12 メートル、北大が解体 苫小牧港
2009 年 3 月 2 日	苫小牧民報	極めて珍しい漂着例 調査した松石北大准教授に聞く
2009 年 3 月 2 日	室蘭民報	体長 13 メートル クジラ哀れ 貨物船に死がい引っ掛かる
2009 年 3 月 3 日	北海道新聞	漂着したのはナガスクジラ
2009 年 3 月 3 日	毎日新聞	病気などで弱り死んだ可能性も 苫小牧港のクジラ死骸現地調査
2009 年 4 月 10 日	北海道新聞	函館沿岸に春の使者？北大 ネズミイルカ 2 頭捕獲
2009 年 6 月 18 日	水産経済新聞	例年の 10 倍超 鯨類標本採取 20 年度、55 件を入手
2009 年 7 月 6 日	北海道新聞	08 年度の道内 鯨類の漂着増加 94 頭 函館の研究組織まとめ
2009 年 10 月 20 日	北海道新聞	寄りクジラを追え SNH の挑戦 実績全国一 調査網全道カバー
2009 年 10 月 21 日	北海道新聞	寄りクジラを追え SNH の挑戦 情報の宝庫 海洋と人をつなぐ
2009 年 10 月 22 日	北海道新聞	寄りクジラを追え SNH の挑戦 社会に還元 鯨塚から歴史探る

クジラ引っかけたまま入港

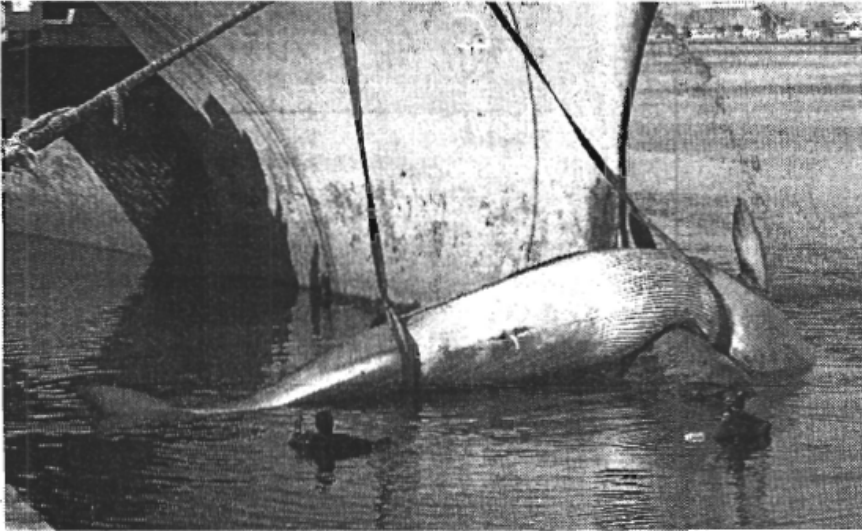
貨物船、乗員気付かず 苫小牧

【苫小牧】一日午前

は体長一三メートルで、「ナガスクジラ」とみられる。すでに死んでおり、

四時半ごろ、苫小牧市勇弘の苫小牧港に入港した貨物船「ひたち」(七、〇九六ト)の乗組員から「船首にクジラが引っかかっている」と苫小牧海保に通報があった。

苫小牧市農業水産課



沖合で衝突したらしい。

貨物船は東京湾から

約三十時間かけて苫小牧港に入港。乗組員は衝突に気付かなかったという。同海保は「沖で船とクジラが衝突することはあるが、引っかけたまま入港するのは珍しい」と話す。

ナガスクジラは一九六〇年代までは釧路沖などで商業捕鯨が行われたが、最近は道内での漂着例はほとんどなく、クジラ研究者でつくる「ストランディングネットワーク北海道」は「生物学的に貴重な資料」という。二日に北大大学院の松石隆准教授が調査をする。

船首に引っかかったナガスクジラとみられる死骸(しい)

岸壁に巨体「でかい」

漂着クジラ、市民ら見守る

苫小牧港勇払埠頭に一日に着岸した貨物船の船首に引っかかっていった「ナガスクジラ」。

二日には、陸揚げされた巨大なクジラを一目見ようと見物人が数十人も訪れ、専門家の調査を見守った。

「でかいな」。午前八時半から調査開始。シートが外され、体長十二・四メートルのクジラが姿を現すと見物人から驚嘆の声がもれた。

フォークリフトなどが走り回り、多くのコンテナが置かれた岸壁で巨体はひと際、人目を引いた。港湾関係者や一般人が続々と集まり、携帯電話のカメラを向けた。

ニュースで知り、千歳市から駆けつけた夫婦は「クジラを見る機会なんてめったにない。慌ててきた」と興奮気味。苫小牧市の会



陸揚げされたナガスクジラに携帯電話のカメラを向ける見物人

社員男性は「でかくてクジラらしいクジラだ」と見入った。

解体作業が進むと腐臭が強くなり、顔をしかめる人も。調査責任者の松石隆・北大大学院准教授は「人前にクジラが揚がること自体、貴重な機会。科学的にしっかりと調べ、成果をあげることが子供になる」と話した。

死骸は三日に苫小牧市

勇払の砂浜に埋められる。
(門馬羊次)

函館沿岸に春の使者？

北大 ネズミイルカ2頭捕獲

毎年四月から五月上旬にかけ、函館市南茅部地区の沿岸にネズミイルカの群れが回遊してくる。その生態と回遊ルートに取組む北大大学院水産科

学研究院の松石隆准教授と鯨類学Ⅱは九日朝、今年初となる二頭を捕獲した。

この時期、漁業者にとっては魚を追いつた迷惑な存在になる。

松石准教授は二〇〇二年、定置網の網元の

この日、白尻漁港から三ヶ沖の網元・白尻



定置網で捕獲され、白尻漁港に運ばれた2頭のネズミイルカ＝9日（石川崇子撮影）

協力を得てネズミイルカの混獲防止策の研究を開始。定置網に迷い込む年二十頭の背びれに人工衛星で追尾できる発信器を付け、六月には国後島まで回遊し、日本沿岸三十ヶ以内を生息域としていることを突き止めた。

水産所有の定置網で捕獲されたのは全長一・五九メートルの雄と同一・五四メートルの雌。すぐに同漁港に運ばれ、松石准教授が顧問を務める北大鯨類研究会の学生五人の手で北大白尻水産実験所の直径六メートルの水槽に移した。

（山村晋）

6月18日 木曜日
Thursday

2009年(平成21年)

發行所
水産経済新聞社

東京都港区六本木6丁目8番19号
電話 03-3404-6531(代) 108-0032
FAX 03-3404-0 8 6 3
振替口座番号 00180-6-82557

電話口座號碼 00160-6-92557

 株式会社 大水

本	社	大
東	支	中
北	支	中
神	支	中
明	支	中



ストランディングネットワーク北海道

活動報告書によると、初年度の19年度は64件、20年度には90件（日本経済研究所の記録7件を含む）の情報が寄せられた。例では30件程度にとまっていたけれど、その数は着実に増えている。

今年3月、吉小牧に誘われて行ったガススタジオ。SZNZのメンバーである北大経研Hの吉が積極的に付けた体長などを計測した。個体標本を採取した（N2提供）。

例年の10倍超

鯨類標本採取

20年度、55件を入手

【函館】ストレンジネットワーク北海道（S.N.H.代表・松石隆北大大学院水産科・研究員准教授）に昨年度1年間で寄せられた道内各鯨類の座標・漁獲・混獲情報は83件で、そのうち55件については個体の標本を採取することに成功した。S.N.H.が発足するまでは「例年5件程度の標本しか収集されていなかった」（松石代表）とされ、20年度はその10倍以上の標本を入手。松石代表は「新鮮な標本であれば骨の内臓物の判別も可能になるので、漁業と鯨類との統合を解明することにもつながる」と期待を寄せている。

SNHは、道内各地で発見される鯨類のストラ
ンディング（座礁・漂着）
情報を一元的に管
理し、それを今後の研究
に生かしていくと19年
1月、松石代表ら鯨類研
究者らが中心となって立
ち上げられた。同年4月
から通報専用窓口「北海
道いるのか・くじら」一〇

二も期待
増し

Stranding
Network
Hokkaido
Whale Stranding Network Hokkaido



SNHローマー

胃内容物の把握にも期待 漂着情報は前年4割増し

20年度で最も多かったのが、オーストラリアの2頭で、次いでシールの1頭、頭、ミンククラ、1頭、頭、マイルカ(7頭)と続。今年5月、和歌山県の内に迷い込んで、話になったマニコウクラの3頭が見かかって、今年3月1日は、若小1頭、デウスが、若小を出港した。オーストラリアは、貨物船・ひたち(7000g)が、若小救難に入港、かいていたもので、体長12.1、体重15.1推定)だった。船中で接触したかは不明だが、北航海道では初めての報告された。

**Stranding
Network
Hokkaido**
ストランディングネットワーク北海道



97-411991Z

昨年度から団体標本ことができた
の採取にも力を入れ始め
た。主、SNI会員で
北大鯨類研究のメンバ
ーでもある生主が現場
に直行し、外観等を測
定。その解で得られ
た標本を研究機関へ送
るなどして、科学的デ
ータの蓄積に取り組ん
でいる。今年度はさら
に55件の標本を採取す
る。また、7割近
く収集率を上げ、

月にも新しい
たオキギ
類(スズク
キ)の標本から
のオキギハナ
リや、同種
で日本でも
なっていたと
る。

松石代表は「北海道の開拓者日本セトリ市一研究会」第20回大会で発表されることになった。

大・函館

[illegible]

08年度の道内

鯨類の漂着増加94頭



苦小牧港にたどり着き、標本採取が行われた
ナガスクシラⅡ今年3月（SNH提供）

函館の研究組織まとめ

【函館】北海道沿岸に漂着したり、混獲が確認された鯨類が2008年度は10種94頭に上ったことが、函館の鯨類研究組織「ストランディングネットワーク北海道」(SNH)のまとめで分かった。前年度より1種30頭多く、国内初確認となったハッブスオウキハクジラの雌や道内初確認のナガスクジラは、肉片などの標本採取にも成功。北海道周辺に生息する鯨類の生態解明に役立つと期待されている。

SNHは北大大学院水産科学研究院の松石隆准教授＝鯨類学＝を中心に、日本鯨類研究所（東京）の支援組織として07年に発足。理科教員や自然ガイドら会員60人が、漂着情報などを基にクジ

ラとイルカの体長計測や標本となる肉片、臓器の収集を行っている。

の流れの変化が考えられる」と松石准教授は話す。

希少種のハツプスオウ
ギハクジラの雌は全長4
・7メートル、日高管内新ひ
だか町に昨年6月に漂
イルカ22頭、ミンククジ
ラ15頭、カマイルカ7頭、
ツチクジラやマッコウク
ジラも各3頭確認した。

着。肉片や臓器が標本にされたのは、米大陸の西海岸以外では初という。北太平洋で生息数が減少しているナガスクジラは今年3月、全長12歳の幼体が貨物船のへさきに引っかかった状態で苦小牧港にたどり着いた。

標本を採取できたのは59頭で、S NH発足前の年間5頭の10倍超に増えた。S NHの活動が知られてきたことが数の増加につながっているとみられる。松石准教授は「鯨類の生態解明や漁業被害害に関する研究には、標本

イシイルカは19頭を確認。このうち13頭は昨年6月前後に小樽市から稚内市の日本海沿岸に連続漂着した。「原因は調査中だが、餌の分布や水温、潮をもっと集める必要がある」としている。クジラの漂着や座礁の情報は「北海道くじら・いるか110番」☎090・1380・2336へ。

59頭標本に生態解明に期待

寄りクジラを追え

SNHの挑戦

<上>

「クジラが浜に揚がりました」。北海道の各地の市町村職員や住民からストランドینگ（座礁、漂着、混獲）情報が入る。

窓口は2007年発足したストランドینگネットワーク北海道（SNH、函館）。国立科学博物館（東京）が、欧米を本に漂着鯨類の科学的調査を行うネットワークをつくろうと呼び掛け、誕生した団体だ。本部は函館の北大水産学部にある。連絡を受ければ、代表の松石隆北大大学院准教授（鯨類学）らメンバー約60人が現地に駆け付ける。浜に打ち寄せられたイ

ルカやクジラは「寄りクジラ」と呼ばれる。かつては海からの貴重な「贈り物」だった。SNHは死骸や迷子、混獲された寄りクジラを調べ、生きていれば保護する。

標本数10倍以上

体長やひれなどの特徴を記録し、写真を撮影する。死骸の場合、刃物で

実績全国一

調査網全道カバー



苫小牧港で解体調査される体長約12mのナガスクジラ。手前は陽＝3月2日（SNH提供）

など、日本近海に生息する種の4分の1に当たる10種94頭を確認した。松石代表は「全道を網羅する組織ができ、標本数は発足前の10倍以上になった」と笑顔をみせる。

昨年6月にハッブスオウギハクジラの極めて珍しい雌を国内で初めて確認。今年3月には苫小牧港で貨物船のへさきに引っ掛かったナガスクジラが注目された。

全員が奉仕参加

メンバーは北大、帯広

り記録したりできる」と話す。根室管内羅臼町の漁師、桜井憲二さん（46）は「拾てればごみだが、研究者には宝物」と、刺し網にかかる年3頭ほどのネズミイルカを提供する。

厚い脂皮をはぎ、筋肉や骨を外す。切り取った内臓はケースに入れ冷凍処理する。腐臭が漂う中、刃先の脂を研ぎ石で落としながらの作業だ。標本

は研究機関の貴重な研究材料となり、データは各地の大学や研究所、水族館で共有される。「DN村志乃さんは語る。SNHは08年度、マッコウクジラやカマイルカ

畜産大などの研究者や学生に加え、自然ガイドもいる。すべてボランティアだ。小樽市の主婦、狩野和子さん（64）は参加した動機を「素人でも見た

発信

2009

（函館報道部の山村晋が担当します）

寄りクジラを追え

SNHの挑戦



<中>

5月まで函館沖にいたネズミイルカが太平洋沿岸を東に進み、10月には北方領土の択捉島や国後島の沖で過す。漂着鯨類を追うストランディングネットワーク北海道（SNH）の松石隆代表（北大大学院准教授）らが、発信機を背中に装着した一頭のイルカの衛星追跡調査で突き止めた。

研究材料を共有

体長1・2歳のこの雌イルカは4月、函館沖の定置網に入った「寄りクジラ」だった。回遊時期と漁期が重なる函館沖では「漁師の理解もあり、道内で唯一、元気なイルカ

情報の宝庫

北大では海洋生物の遺伝子を基にした生物多様性の研究に利用される。大学院1年の北村志乃さんは「ハクジラの筋肉や脂皮からDNAを抽出し種を遺伝子レベルで分類したい」と情熱を注ぐ。骨格標本は帯広畜産大行きとなる。カバなどの

海洋と人をつなぐ



ハクジラの脂皮と筋肉からDNAを抽出し、種を分類している北大の研究室

海洋汚染に警鐘

有蹄類から進化した鯨類がどう海に適応したかの研究に使われる。リンパ節や粘膜は九州大でウィルスや細菌の感染症が調べられ、漂着原因の解明に役立てられる。海洋汚染に警鐘を鳴らしている。漁業の対象となる魚介類を食べていないかは、胃の内容物調査で分かる。国立科学博物館（東京）の山田格博士らが担当し、オウギハクジラ

発信
2009

が深海性のイカを主に捕食し、ローブなどものみ込んでしまっている現状が分かった。腸は酪農学園大に送られ、寄生虫の分布状況が研究されている。海洋に流れ込む下水などの影響で免疫力が落ち、海では通常見られない寄生虫に感染している個体も多い。「座礁クジラは研究材料の宝庫」と、浅川満彦教授（寄生虫学）はSNHの活動の意義を語る。大洋を回遊し、深海まで潜れるクジラたち。「寄りクジラが海と人をつなぐ。海の中の情報が詰まった体が海全体の様子を教えてくれる」。松石代表はそう感謝する。

寄りクジラを追え

SNHの挑戦

<下>

函館市南茅部地区の寺の境内にある鯨塚。その骨が、1930年（昭和5年）9月に漂着したナガスクジラのものであることが今年5月、ストラディンクネットワーク北海道（SNH）の調査で判明した。鯨塚は寄りクジラの供養塔で地元漁師が建てた。古い写真によって漂着日は分かっていたが、種は不明だった。

耳骨に種の特徴

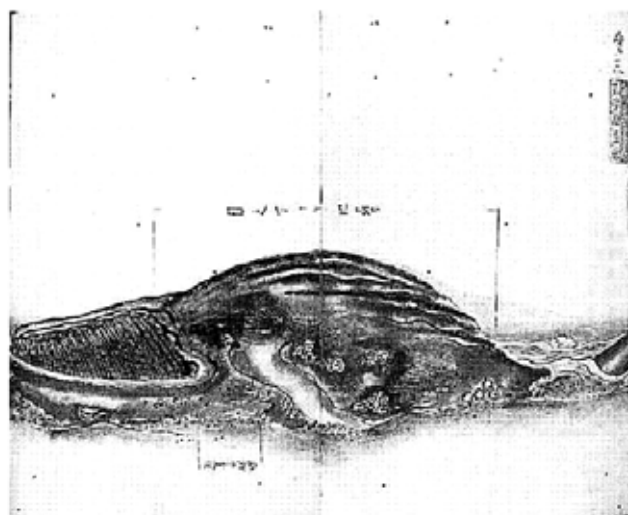
決め手は耳骨の一つ「鼓胞」。山積みされた骨に交じり、こぶし大ほどの白色の鼓胞があるのを考古学に詳しい住民が見つけた。SNHに持ち

込み、国立科学博物館（東京）が詳しく調べた。「鼓胞は種ごとに特徴がある。これは道内で最も古いナガスクジラの漂着記録」（同館の山田格博士）。道内では、今年3月に貨物船のへさに引っかけた苦小牧港の個体以外には例がな

社会に還元

いとされていた。

寄りクジラと人との付き合いは古い。苦小牧や釧路、函館の5千〜6千年前の縄文前期の遺跡をはじめ、各地からクジラの骨が出土している。



箱館奉行所の報告書「宗谷諸達留 第壹」に描かれた寄りクジラ（函館市中央図書館所蔵）

鯨塚から歴史探る

「集落を潤す巨大な寄りクジラは海の恵み。肉を食べ、骨で道具を作り、脂で明かりをとしました」。NPO法人函館市埋蔵文化財事業団の佐藤一夫理事長は考察する。

北海道開拓記念館によると、アイヌ民族には、フンベ（クジラ）の漂着を願い、恵みに感謝するフンベリムセ（鯨踊り）が生まれた。松前藩は、寄りクジラの肉を焼いた

特産品「石焼鯨」を幕府に献上した。

1858年（安政5年）、モンベツ場所（紋別市周辺）の役人が箱館奉行所へ送った報告書「宗谷諸達留 第壹」には、波打ち際におおむけとなった寄りクジラを描いた貴重な色彩画も残る。

先人の生活潤す

クジラの分配には時代ごとにルールがある。幕末期には箱館奉行、場所

請負人、アイヌ民族に3等分された。今は道内の定置網で年間10頭ほど混獲されるミンククジラなどが市場に出回るにも国の許可が必要だ。鯨塚は小樽や檜山管内

せたな町にも残る。明治から昭和にかけ主に日本海のニシン漁場で建立された。開拓記念館の水島末記学芸員は「クジラは大漁をもたらすエビス（神様）。恵みに感謝し手厚く葬った」と説明する。SNHの松石隆代表（北大大学院准教授）は「漂着記録は現代の鯨塚。クジラから学んだことを社会に還元したい」と意欲を燃やす。豊かな海の象徴である寄りクジラを、歴史に記す役目をSNHが担う。成果はインターネットで世界に公開されている。

情報提供は、北海道いるか・くじら110番 090・1380・2336へ。

発信 2009

2009 年ストランディングネットワーク北海道活動報告書

2009 年 6 月 19 日発行

ストランディングネットワーク北海道 発行

〒041-8611 北海道函館市港町3-1-1

北海道大学 松石研究室内

電話: 090-1380-2336

e-mail: kujira110@gmail.com

URL: <http://snh.seesaa.net>

掲載されている写真や情報には著作権があります。
利用する場合は、ストランディングネットワーク北海道にご相談下さい。